

動物介在療法学

学科共通科目 1年 後期・2年前期 16時間 1単位 講義

講師 小笠原忠彦

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	病院の経営、院長で医師として診察・治療を担当
学科・クラス指定等	1・2年生 全コース
学習目標	動物介在療法（AAT）とは何かを理解し、どのような活動がなされているかを知り、動物がもたらす影響を知る。
学 び の キーワード	動物介在療法 精神 心理学
準備学習及び復習の内容・履修条件	事前に教科書を読んでおくこと。各授業後のノートの内容を復習すること
授業方法	全ての講義はパワーポイントを利用して講義する。各授業終了後にレポートを提出し学習深度の理解を図る。
成績評価基準	講義への出席 30%、レポート評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	動物介在療法とは 精神疾患について
2	アニマルセラピーの現状
3	動物介在に必要な介護支援
4	動物介在に必要なストレス学
5	動物介在に必要な精神 心理学 虐待について考える
6	小児病棟に及ぼす動物の効果 子供の発達と動物の関連性
7	動物がもたらす効果・事例 自閉症 発達障害
8	動物がもたらす効果・事例 アルツハイマー